

歌声の満ちる校内！ 1つ1つの「音」は、集合体「ハーモニー」へ！



明日、3年ぶりに合唱コンクールが開催されます。明日の本番での「風景」は、たくさんのクラスや学年が通信として配信してくれることと推察します。私はあえて、前日、今日までに見えた風景を書かずにいられていませんでした。誰も経験したことがない蟻高の合唱コンクールです。中学と違い、音楽の授業で練習するわけでもなく、音とり用のピアノもキーボードもなく、加えてコロナ禍の制限でマスク着用、教室での歌唱も人数制限。どうやって開催までこぎつけるか。私自身が不安でした。行事を一度中断してしまうと復活することの難しさを痛感しました。継続の重要性です。でもあえて、それもいい。そこから学ぶことがたくさんある！ようやく校内に音が聞こえるようになり、合唱という形になってき始めたのが月曜日。そこからの勢いはやはりすごかった！どうやったろうまくいくかを自分たちで相談し「歌う」ことを3年ぶりに思い出し記憶を蘇らせましたね。私と音楽の小林先生で、各クラス1回ずつは顔を出しアドバイスをしてきました。本当は教員がかかわらないほうがいいのかもしれませんが、私は教諭の時から頑張る生徒に少しでも後押ししたい気持ちを込めて合唱コン前はアドバイスしてきました。本校生徒の「気持ちよさ」は別格です！なんと素直で、前向きな姿！歌うことに後ろ向きな生徒や雰囲気乱す生徒は皆無。私達のひとことで音楽が変わる瞬間を共有してきました。3年生では1年の時に選曲したきり1度も歌えていなかった曲を歌うクラスがあります。まさに3年越しの最初で最後の合唱コンクールです。

「なぜ合唱なのか」。アンサンブルすることとは「他人の奏でる音に耳を傾け調和するように自分の立ち位置を考える」これは社会への対応力を養う大切な教育になります。本校が伝統として大事にしてきた「合唱コンクール」が明日、松本市芸術館で復活します！復活1年目の成功と、心と記憶に残る「コロナ禍での合唱コンクール」となるよう、そして持続可能な行事となっていきますように祈ります。

いよいよ明日。運営は生徒会鑑賞委員会。
生徒の手による自主的・主体的な活動を応援します！